

市長が行く 災害への備え



茂原市長 田中豊彦



3・11の震災以来、日本で大地震を想定した防災訓練が行われています。もちろん、東南海トラフ沖地震や首都圏直下型地震、茨城房総沖地震など、今まさに地震列島の様相を帯びてきている現状を考えると、絶対にやらなければならぬことだと考えます。行政と地域の住民とが一体となって、何度も何度も繰り返して訓練することによって、いざというときに的確な行動がとれるようになると思われからです。

今、私が最も気になっているのは、いわゆるゲリラ豪雨と呼ばれている集中豪雨です。数年前から、市役所脇を流れる豊田川の水量が、それほど雨が降っていないにもかかわらず、急激に増加してくることがありました。上流地域での大雨の影響かと、不安に思いました。以前「釜石の奇跡」で知られている群馬大学の片田教授に市民会館で講

演をしていただいたことがありました。その時に「茂原は、地震で心配な点は直下型の地震であり、海岸線から10キロ以上離れている地域なので、津波による被害はそれほど心配することは無い。むしろこの地域で心配なのは、集中豪雨による被害です」と話されていました。「近年の異常気象の影響からか、ここ数年、台風の数も減ってきているが、規模が巨大化してきている」ともおっしゃっておられました。

地球の温暖化等による異常気象による地球規模での大きな気象変動は、想像を超えた大きな被害をもたらすのではないかと心配しています。最近よく報道される突然のゲリラ豪雨では、1時間に50mmという現在の基準を大きく上回る100mm以上の雨をいたるところに降らしており、たまにたま今のところ、この地域を避けていつているに過ぎないように感じられます。もし、突然の集中豪雨が襲ってきた

ときに、どのように対処するのか、私達はよく考え、そして備えなければなりません。市の職員に対しては、いつ起こるかわからない災害に備えて、万全の体制で臨めるように、指示を出しております。

河川の整備に関して、県では一宮川の河川改修事業にかなり力を入れており、国では平成18年から22年にかけて松潟堰の改良工事を行ってきました。その他、調節池の整備、排水用のポンプの設置等も進めてきております。

また、災害のときにも使えるよう、財政調整基金の積み増しをし、今年度末には概算で20億円までになる予定です。

茂原市も過去に大きな災害に遭い、多くの被害を被った経緯があります。市民の皆様さんも、常に災害に対する心構えを忘れずに、自らできることから備えていくことも大切かと考えます。